

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02619

研究課題名(和文) 中学校保健体育科における武道と安全科における安全教育が融合した教材開発

研究課題名(英文) Development of teaching materials that combine Budo in health and physical education in junior high school and safety education in safety studies

研究代表者

太田 順康(Ota, Yoriyasu)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50185287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は中学校保健体育科武道領域で柔道、剣道、相撲や空手道、なぎなたを個別の運動種目として教えるだけでなく、武道領域として共通する動きや考え方を教えるために武道の固有性を見出す。その一つに所作・礼法もあるが、動きの共通性、固有性を示したものは多くない。そこで武道の「型」に着目し、教材を開発し、大阪教育大学附属池田中学校での授業実践を通して有効性を検証した。武道は攻撃よりも防御すなわち「護身」を主としているが、この考え方は「学校安全」にも通じるものもあり、「武道」と「安全教育」に着目し、その関連性を検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は中学校保健体育科武道領域での授業を推進するために各道が連携を図り、日本固有の武道を教える手立ての一つとなる。また武道と安全教育を結び付けることで、教科横断型の授業の可能性も広がる。このことは武道を学ぶ中学生、教える教員にとっても、さらに武道そのものにとっても有益なことになる。

研究成果の概要(英文)：This study aims to find the uniqueness of Budo in order to teach common movements (ways of movement and principles of movement) and ways of thinking in Budo, rather than simply teaching judo, kendo, sumo, karate, and naginata as individual sports in the Budo area of health and physical education, which has become a fully compulsory subject in junior high school. One of these is manners and etiquette, but there are not many that show the commonality and uniqueness of movements.

Therefore, we focused on the "Goshin" that Budo "kata" have, developed teaching materials, and verified their effectiveness through practical lessons at Ikeda Junior High School attached to Osaka Kyoiku University. Budo are centered on defense rather than attack, that is, "Goshin," but this way of thinking is also related to "school safety," so we developed a program that combines "Budo" and "safety education" and examined its relevance to "safety studies."

研究分野：身体教育学

キーワード：武道授業 剣道 型 剣道形 学校安全 ICT

1. 研究開始当初の背景

2012年に中学校保健体育科において、教科体育での系統性を踏まえた全領域必修とグローバル化する社会の中で我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、武道領域での完全必修化されました。研究開始した2018年頃には、授業実施が軌道に乗り始めていた。中学校現場でも、これに対応するために環境が整備も進み、各種団体や教育組織による講習会や研修会も開催され始めていた。このことにより競技としての武道(各種目)は理解されてきたが、グローバル化する社会の中で我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から「剣道を教えること」「柔道を教えること」が開発されてきた。

その後、学習指導要領改訂で、グローバル化する社会の中で我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から一層の改善が図られ、9武道(柔道・剣道・相撲・空手・なぎなた・弓道・合気道・少林寺拳法・銃剣道)が選択可能となり、これまで以上に「武道の共通項と我が国固有の伝統文化としての固有性」の検証が求められました。「剣道で教える武道」「柔道で教える武道」の「武道」が同じものであるのか否か、また「武道」とは何かという問い、「各武道の共通項と我が国固有の伝統文化としての固有性」の検証の必要性が高まってきた。

一方、大阪教育大学附属池田小学校事件により必要性の高まった「学校安全」は安全な学校を作る「安全管理」と児童生徒に啓発活動である「安全教育」がある。避難訓練や不審者対応などの「安全管理」、安全マップに代表される「安全教育」などは実践されてきたが、自身の身体と危機を守る実践的な「術としての安全教育」はあまり多くはなかった。

学校現場でも、武道文化として礼法所作を強調する授業、スポーツとして各競技を楽しむ授業などが混在し、「武道の固有性」を意識した授業運営には至っていなかった。

2. 研究の目的

本研究は2012年に完全必修化し、グローバル化する社会の中で我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から次期学習指導要領で一層の改善が図られる中学校保健体育科武道領域で、各武道を種目個別の運動として教えるだけではなく、武道として共通する考え方や動き(動き方の理合い)を学ぶために、「武道の共通項と固有性」を検討し、武道の固有性の一つとして、各武道が独自に組み上げた「型」を手掛かりに、それを学ぶ教材・プログラム開発を目的とした。

また「学校安全」「安全教育」にも通じる「武道」が持つ「護身」という観点から、「武道」と「安全教育」と融合したプログラム開発を目的として、開発した教材・プログラムの有効性を検証し、広く周知していくことを目的とした。還元してこれらの成果は研究報告に加え、デジタル媒体を活用し広く公表していく。

3. 研究の方法

本研究の趣旨を鑑み、3つの段階を深めてきた。

- (1) 武道が指導できる保健体育科教員養成の質的な向上。
- (2) 「型」の検証と教材化
- (3) 「武道と学校安全との融合」

武道が指導できる保健体育科教員養成の質的な向上

武道が指導できる保健体育科教員養成の「武道領域」理解の向上を目的に、本学の教科専門科目「武道指導論」において、本学専任で指導できる「柔道」「剣道」以外に、「空手道」「なぎなた」「相撲」の指導者を招聘し、複数の武道を体験させることで、受講生の実践を通し「武道の共通項と固有性」の発見を促した。

「型」の検証と教材化

武道の「形」の検証と教材化を目的に、古流派の「型」をベースに明治期に旧制中学校での授業方法の一つとして開発された「高師五行の形」の実践者を招聘し、「型」というものの検証と新たに現在の中学校の教材としての可能性を検討した。

この結果を踏まえ、既存の「型」を教材化した「型」による大阪教育大学附属池田中学校での実験授業を実施した。

「武道と学校安全との融合」

大阪教育大学附属池田中学校での実験授業後、同校で実施されている「安全科」の授業での振り返りを通して、中学生に「武道と学校安全」について見識を深めさせた。

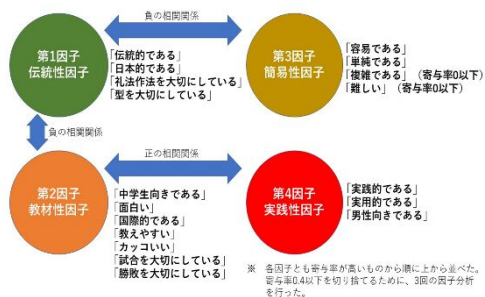
4. 研究成果

研究途中で、コロナウィルス感染症により、保健体育科授業に制限がかかり、思うように実験授業を行うことができなかったが、本研究の成果は大きく3つある。

武道が指導できる保健体育科教員養成の「武道領域」理解の向上を目的に、本学の教科専門科目「武道指導論」において、本学専任で指導できる「柔道」「剣道」以外に、「空手道」「なぎなた」の指導者を招聘し、複数の武道の「型」を体験することを通して「武道の共通項と固有性」の一つに「型」があることを体感した。(写真1)このことにより、次世代の体育を担う教員養成が行うことができた。このことにより受講生には、スポーツとは異なる武道のイメージを形成されていることが検証された。(図1)



(写真1 空手の授業)



(図1) 受講生の武道のイメージ

「型」の検証と教材化では、「日本剣道形」など、既存の「型」ではなく、古流や既存の「型」を改良した独自の「型」を制作し、「型」を教材化した「大阪教育大学附属池田中学校剣道



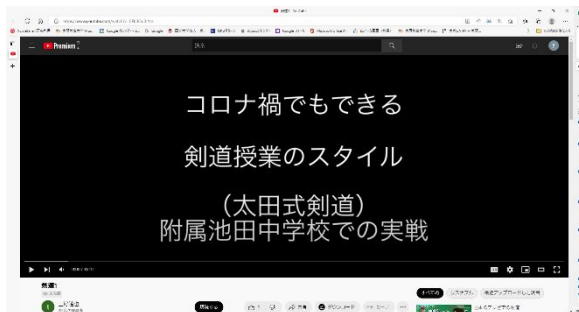
(写真2 著者による授業風景)



(写真3 ICTを活用した授業風景)

形」による授業を実施した(写真2)そこでは「対面知」という、面と向かって目と目を見つめ合い、対峙した相手とのやり取りで生じる感情や考え方の大切さ、難しさ、面白さ、さらに、相手との間合い、捌き、合気など武道特有の動き、予測や読みという戦術や戦術、残心や惻隱の情などの考え方など、武道の固有の要素を中学生に感じさせることができた。また、クロムブックを積極的に活用し、ICTを活用した授業実践を行いました。(写真3)

この授業については、コロナ禍でもあり、対面による授業を公開ができなかったため、YouTube(限定公開)により、教育関係者に限定公開を行いました。(写真4、5)

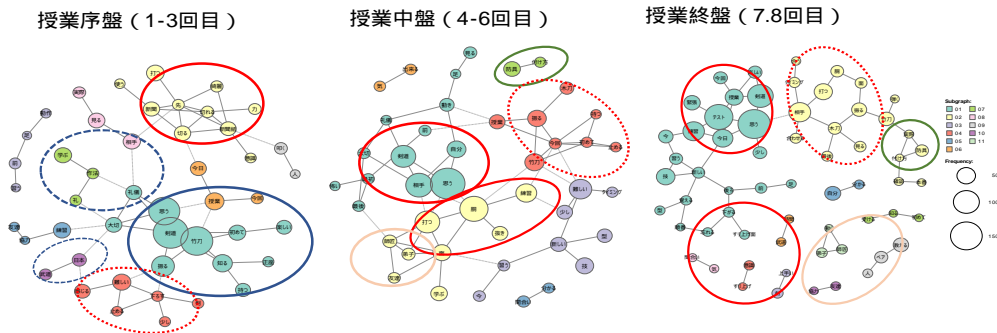


(写真4 YouTubeを活用した授業公開)



(写真5 YouTubeによる授業公開の一場面)

学校安全の授業に直接的に関わることがかなわなかったが、実験授業後、同校で実施されている「安全科」の授業での振り返りを通して、「相手の動きや考え方を読むこと」「相手になり考えること」など、武道の授業実践による成果が身につけていることが見えてきた。授業毎に収集した振り返りをテキストマイニングしたところ、「師弟」「友人」の関係や「安全」に関する用度や言葉の結びつきを見ることができた。(図2)



(図8) 「剣道振り返り」の自由記述のKHコーダー分析による共起ネットワーク図の変化

(図2 授業の振り返りの推移)

以上のことを下記の報告および YouTube による公開,さらに学内での附属学校との研究発表会を通して,保健体育科教育研究者のみならず,附属学校教員や学校安全研究者に,武道領域に保健体育科の枠を越えた教科横断型の授業や研究の可能性があることを示唆できたことにより,教育を研究主眼としている本学の研究者により情報発信も増えるきっかけとなった。

さらに日本武道学会第 56 回大会(2023)を本学で主管し,学会期間中,本学の取り組みである「武道と学校安全」のブースを特設し,本研究の成果や「学校安全」の取り組みを,参加した 300 人近くの国内外の武道研究者に発信できたことは,研究発表や論文に勝るとも劣らない成果であると信じている。

<研究発表>

日本武道学会第 56 回大会 『中学校保健体育科における武道領域のこれからの可能性について』(「武道学研究」 56 57-57 2023 年 8 月)

日本武道学会第 56 回大会 『中学校なぎなた授業に関する研究 体育教師のなぎなたイメージに焦点をあてて』(「武道学研究」 56 58-58 2023 年 8 月)

日本武道学会第 55 回大会 『剣道形を取り入れた中学校剣道授業実践について ~オンライン授業研究会の実施に向けて~』(「武道学研究」 55 72-72 2022 年 8 月)

日本武道学会第 54 回大会 『中学校保健体育科「剣道」授業において「剣道形」導入の可能性について ~主体的・対話的な学び,安全教育を意識して』(「武道学研究」 54 74-74 2021 年 8 月)

日本武道学会第 53 回大会 『中学校武道必修へ「型」の考え方を取り入れた授業づくり』(「武道学研究」 53 71-71 2020 年 8 月)

日本武道学会第 52 回大会 『体育科における「形」の考え方を活用した体づくり運動の実践』(「武道学研究」 52 46-46 2019 年 8 月)

日本武道学会第 51 回大会 『武道授業体験を通した武道のイメージ形成について』(「武道学研究」 51 46-46 2018 年 8 月)

<雑誌寄稿>

太田順康「中学校剣道授業に有効な剣道形」『月刊 武道』(674) 81-81 2023 年 1 月

<その他>

日本武道学会第 56 回大会(2023) 主管し,研究ブース「武道と学校安全」特設し研究発信 YouTube 「コロナ過でもできる剣道授業スタイル(太田式剣道) 附属池田中学での実践」

(現在論文を執筆中であるが,病氣療養中の為,今年度末には投稿予定である)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 太田順康	4. 巻 674
2. 論文標題 中学校剣道授業に有効な剣道形	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武道	6. 最初と最後の頁 83-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金森 昭憲	4. 巻 29
2. 論文標題 安全教育と武道の融合の可能性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西武道学研究	6. 最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 由留木俊之	4. 巻 29
2. 論文標題 体育科における「形」の考え方を活用した体づくり運動の実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関西武道学研究	6. 最初と最後の頁 39-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 太田順康、金森昭憲、由留木俊之、石川美久
2. 発表標題 剣道形を取り入れた中学校剣道授業実践について ～オンライン授業研究会の実施に向けて～
3. 学会等名 第55回日本武道学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 太田順康, 金森昭憲、由留木俊之、石川美久
2. 発表標題 中学校保健体育科「剣道」授業において「剣道形」導入の可能性について～主体的・対話的な学び、安全教育を意識して～
3. 学会等名 第54回日本武道学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 太田順康, 金森昭憲、由留木俊之、石川美久
2. 発表標題 中学校武道必修へ「型」の考え方を取り入れた授業づくり
3. 学会等名 第53回日本武道学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 由留木俊之
2. 発表標題 「武道」領域への系統性を踏まえた体育科学習内容についての研究：対人系体づくり運動の実践を通して
3. 学会等名 日本武道学会関西支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 由留木俊之2019
2. 発表標題 体育科における「形」の考え方を活用した体づくり運動の実践
3. 学会等名 日本武道学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 由留木俊之、金森昭憲、太田順康、石川美久
2. 発表標題 武道授業体験を通じた武道のイメージ形成について
3. 学会等名 日本武道学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 由留木俊之、金森昭憲、太田順康、石川美久
2. 発表標題 体育科における『形』の考え方を活用した体づくり運動の実践
3. 学会等名 日本武道学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田順康、金森昭憲、由留木俊之、石川美久
2. 発表標題 中学校保健体育科における武道領域のこれからの可能性について
3. 学会等名 日本武道学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 今浦千信、太田順康
2. 発表標題 中学校なぎなた授業に関する研究 体育教師のなぎなたイメージに焦点をあててー
3. 学会等名 日本武道学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------